

# 令和6年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第五小学校

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

### (1) 成果

- ・低学年からの漢字の読み書きの継続的・定期的（小テスト、個別指導等）の取り組みにより、めあてをもって取り組む環境を意識したことで、言語事項で十分な伸びが見られた。
- ・学力調査を行った学年について、すべての項目で目標値を上回っている。さらに大田区の平均正答率、全国の平均正答率も上回っている。

### (2) 課題

- ・4年生と6年生は、基礎的な力は7割の正答率があるが、活用して問題を解くことに関しては、正答率が6割程度にとどまっている。一方5年生は、基礎的な力が6割ほど、活用の力が7割と他学年とは傾向が異なる。学年の実態に合った指導をしていく必要がある。
- ・学力調査を行った学年について、知識・技能の目標値は上回っているが、他の項目と比べると数値は低い。知識の定着が図れるよう、継続的・定期的な指導をしていく必要がある。

## 2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率(経年比較) △は目標値を上回っている観点。▽は目標値を下回っている観点。

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△ 区や全国平均よりも上回っている。	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度▽ 区や全国平均より上回っているが、目標値に到達していない。	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△ 全国平均よりも上回っている。
第5学年	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△ 区や全国平均よりも上回っている。	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△ 目標値も全国平均も上回っている。	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△ 目標値は越えているものの、知識・技能は全国平均より若干下回っている。
第6学年	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△ 区や全国平均よりも上回っている。	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△ 全国平均よりも上回っている。	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△ 前年度に比べて知識・技能と思考・判断・表現が校内平均を下回っていた。

(2) 分析 (観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・ 4年生では、「漢字を読む」「漢字を書く」は目標値をやや上回っているが、「ローマ字」は目標値が7割に対し、正答率が5割と下回っている。</p>	<p>・ 4年生では、「文章を書く」は大きく目標値を上回っている。「物語の内容の読み取り」では、登場人物の様子について叙述をもとに捉えることが目標値を下回った。</p>	<p>・ 4年生では、「主体的に学習に取り組む態度」は昨年度の校内平均回答、今年度の目標値・区平均回答・全国平均回答を大きく上回っている。特に書くことにおいて意欲的に取り組んでいる。</p>

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・ 5年生では、「漢字を読む」は目標値を上回っている。一方で、連用修飾語や連体修飾語の理解が不十分なことについては、語彙力の少なさやコミュニケーション能力が低いことが原因であると考える。</p> <p>・ 6年生では、「漢字の読み書き」「言葉の学習」が目標値と同じ又は上回っている。日頃の漢字練習の取り組みによって、しっかりと定着していることが分かる。</p>	<p>・ 5年生では、「話し合いの内容を聞き取る」は全て目標値を上回っている。一方、「物語や説明文の内ようを読み取る」は目標値を下回り、叙述を基に、段落相互の関係や文章全体の構成を捉える力が弱いことが分かった。</p> <p>・ 6年生では、今年度も「内容の読み取り」が目標値を上回り、文章構成を理解したり捉えたりする力が高いことが分かる。一方で、物語で描写を捉えて人物の心情を捉える力が低く、間接的な表現の理解が不十分なことが分かる。</p>	<p>・ 5年生では「文章を書く」の記述の問題において、ほとんどが目標値を上回った。問われたことに対して、自分の考えを明確にして文章を書いたり、自分の考えの根拠や理由となる事例を加えて書いたりするなど、考えを言語化することに意欲的に取り組んでいる。</p> <p>・ 6年生では、目標値を大きく上回った。段落の役割や論の書き方など、学んだ知識や技能を生かして、自分の言葉で考えを書いて表現することができている。</p>

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・ 漢字の読み書きを継続して行い、漢字小テストやまなびポケット「ドリルパークミライシード」を活用し、定着をはかる。</p> <p>・ 段落の役割を意識した文章を書けるよう段階を踏んで指導を行う。説明的な文章の読み取りを通して、段落構成について学ばせる。</p>	<p>・ 伝え合うために必要な事柄を選べるように、交流や発表など児童が自分の考えを表現する場を設ける。</p> <p>・ 互いの話に関心を持ち、相手の発言を受けて話せるように、聞く姿勢を指導する。</p> <p>・ 登場人物の様子や性格について叙述を基に捉えられるよう、児童に根拠や理由をも</p>	<p>・ 学校図書館を活用し、本に触れる機会を設け、読書時間を十分に確保する。学習内容に合わせた本を教室に並べる、学期により学級文庫を入れ替えるなど教室の読書環境も整える。</p> <p>・ 問題解決型学習や主体的に取り組める体験型授業を展開する。また、活動を多くす</p>

	って自分の考えを述べるように指導を行う。	ることで意欲を高める。
--	----------------------	-------------

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・漢字や言語学習では、漢字小テストやまなびポケット「ドリルパークミライシード」を活用し、習熟度別に課題を設定し、学力の定着をはかる。</p>	<p>・書くことでは、内容の中心を明確にし、文章の構成を意識して書く指導を行う。</p> <p>・登場人物の様子について叙述をもとに捉えられるように、児童の発言や記述に対して根拠や理由を問いかえずようにする。</p>	<p>・学習効果測定の結果を個人面談で家庭と共有し、的確な児童理解を行う。</p> <p>・読書時間を確保するために図書の時間を計画的に行う。また、地域の図書館から司書を招き、本紹介をしてもらい、興味を広げる。</p> <p>・ICTを用いて、意見交流の機会を増やし意欲を高める。</p>

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・まなびポケット「ドリルパークミライシード」を活用し、漢字や文章を読み取る力等基礎学力の定着をはかる。定期的に漢字の小テストを実施し、漢字の定着を図り、個に応じた課題を設けることで定着を確実にする。</p> <p>・連体修飾語などの言葉を学ぶ小単元の授業では、教科書に載っている問題だけでなく、プリント等で類似問題を解くなどして定着を図れるようにする。</p>	<p>・説明文の学習では、初め・中・終わりの構成や、筆者の考えが書かれている箇所を全体で確認することで、内容の要点や要旨をつかめるようにする。</p> <p>・登場人物の心情を、描写を基に考え、読みを深める面白さを味わわせるために、考えを交流させる場を意図的に設ける。</p>	<p>・学習効果測定の結果を個人面談で家庭と共有し、的確な児童理解を行う。</p> <p>・ICTを活用した授業作りをして、児童の意欲を高める。</p> <p>・学校図書館の活用や地域図書館を利用し読書時間を確保し、多種多様な図書に触れさせる。</p> <p>・考えを表現する場面では、個人で完結させるのではなく、話し合ったり、他者の意見を聞いて考えを見直したりして、自身の考えをまとめる機会を設ける。また、教師が一人一人の考えを価値付けていくことで自信をもたせ、前向きに学習に向かえるようにする。</p>

# 令和6年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第五小学校

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

### (1) 成果

- ・「書く活動」を重点的に行った結果、目標値と同等か上回る結果となった。しかし、同等の設問が多く、目標値を上回る設問を増やすための手だてが必要。
- ・昨年度より、第5・6学年だけではなく、第4学年も教科担任制となった。その結果、統一した指導をすることができ、すべての項目で目標値を上回ることができた。

### (2) 課題

- ・文で記述することに課題があるため、毎時間における「まとめる活動」の活動の仕方を改める必要がある。
- ・問題解決的な学習における授業展開において、学習計画段階で見通しをもつことができない資料提示や発問をしていることが考えられる。
- ・学校全体で社会科に関する指導の統一を図る必要がある。

## 2 大田区学習効果測定の結果分析

### (1) 達成率（経年比較）

△は目標値を上回っている。▼は目標値を下回っている。－は目標値と同じ。

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	知識・技能▼ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△
第5学年	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△	知識・技能△ 思考・判断・表現▼ 主体的に学習に取り組む態度▼
第6学年	知識・技能▼ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度▼	知識・技能▼ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△	知識・技能▼ 思考・判断・表現▼ 主体的に学習に取り組む態度▼

(2) 分析 (観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>第4学年は目標値を下回る結果になった。</p> <p>特に、買い物調べの結果を読み取る問題では、目標値を大きく下回った。</p> <p>一方、工場の仕事の行程について読み取る問題では、正答率が目標値を大きく上回った。</p>	<p>第4学年は目標値を上回る結果になった。</p> <p>特に、工場の仕事に見られる工夫について考える問題では目標値を大きく上回った。</p> <p>一方、警察の仕事のうち、条件に当てはまるものを判断する問題では、正答率が目標値を下回った。</p>	<p>第4学年は目標値を上回る結果になった。</p> <p>知識・技能を伴う、畑の地図記号の理解を基に地図を読み取る問題では、目標値を下回った。</p> <p>思考・判断・表現を伴う問題では、販売の仕方に見られる工夫について考える問題などで目標値を下回り、それ以外の問題は上回った。</p>

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>第5学年は目標値を上回る結果になった。</p> <p>特に、特色ある地域の伝統について理解を問う問題では、目標値を大きく上回った。</p> <p>一方、緑のダムの仕組みを問う問題では、正答率が目標値を大きく下回った。</p> <p>第6学年は目標値を下回る結果になった。</p> <p>特に、日本近郊の漁獲量の多い港の特徴について、資料を読み取る問題では、正答率が目標値を大きく下回った。</p> <p>一方、間伐についての理解を問う問題では、目標値を上回った。</p>	<p>第5学年は目標値を上回る結果になった。</p> <p>特に、防災倉庫の設置について考える問題では、目標値を大きく上回った。</p> <p>一方、正答率が目標値を下回った問題はなかった。</p> <p>第6学年は目標値を上回る結果になった。</p> <p>特に、情報の発信と受信の注意点について考える問題では、目標値を大きく上回った。</p> <p>一方、国内の林業が抱える課題について考える問題では、正答率が目標値を下回った。</p>	<p>第5学年は目標値を上回る結果になった。</p> <p>知識・技能を伴う問題では、目標値を大きく上回った。</p> <p>思考・判断・表現を伴う問題では、目標値を上回るか同等のみで、下回った問題はなかった。</p> <p>第6学年は目標値を下回る結果になった。</p> <p>知識・技能を伴う問題では、目標値を下回った。</p> <p>思考・判断・表現を伴う問題では、水産物の流通の工夫について、資料を基に判断する問題のみ目標値を上回り、それ以外の問題は同等か下回った。</p>

### 3 授業改善のポイント（観点別）

#### (1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

#### (2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>第3学年では、内容(1)の学習と内容(2)(3)(4)との関連を意識し、意図的に内容(1)の単元をデザインすることで、大田区を中心とした社会生活を総合的に理解できるようにする。</p> <p>第4学年では、東京都をよりよくしようとする人々の工夫や努力に着目し、各内容で問うことで、東京都を中心とした社会生活を総合的に理解できるようにする。</p>	<p>毎時間の「まとめ」を児童自身が吟味して考え、記述できるようにする。そのために、教師は黒板にまとめを教師の言葉で書かないようにし、書く場合は、リード文のみにする。また、まとめを記述する際、本時で大切なキーワードは何かについて、考えさせる。そうして得た板書のキーワードを強調するなどし、キーワードを使ってまとめを書けるように指導する。</p>	<p>児童が学習に対して「見通し」をもち、「振り返る」ことができるようにする。</p> <p>「見通し」については、学習計画づくりに重点を置く。学習問題に対して予想したことについて、何が分かれば解決できるのかを、児童が自ら考え、立案することで、見通しをもつ力を育てる。</p> <p>「振り返り」については、自身の学びを見通せるシートを作成する。そうすることで、自身の学びを振り返り、まだ分からないことやもっと調べたいことを明確にし、次の学習に臨めるようにする。</p>

#### (3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>第5学年では、我が国の国土と産業という大きく2つのまとまりがあるため、国土の様子をしっかりと捉えさせたうえで、産業の学習を行うことで、輸送や各地域でさまざまな産業を取り上げる際、国土の様子と関連付けることにより、我が国の国土と産業の様子や特色を総合的に理解できるようにする。</p> <p>第6学年では、我が国の政治の考え方と仕組みや働きを学習した後、歴史を学ぶ意</p>	<p>毎時間の「まとめ」を児童自身が吟味して考え、記述できるようにする。そのために、教師は黒板にまとめを教師の言葉で書かないようにし、書く場合は、リード文のみにする。また、まとめを記述する際、本時で大切なキーワードは何かについて、考えさせる。そうして得た板書のキーワードを強調するなどし、キーワードを使ってまとめを書けるように指導する。さらに、文章による記述に加え、図や表で表してもよいこと</p>	<p>中学年の社会科の学習を想起させることにより、学習する範囲が広範になっていることに気付かせることにより、中学年で用いた視点で見通しをもって学習を進められるようにする。</p> <p>児童が学習に対して「見通し」をもち、「振り返る」ことができるようにする。</p> <p>「見通し」については、学習計画づくりに重点を置く。学習問題に対して予想したことについて、何が分かれば</p>

<p>味について考えるための歴史単元における導入を行うことで、政治単元で得られた3つの視点（政治・文化・外国）に沿って歴史学習を進めることにより、先人の業績や優れた文化遺産のもとに現代の我が国の政治の考え方や仕組みや働きに生かされていることに気付かせ、我が国の政治と先人についての確かな理解を促せるようにする。また、この理解をもとにすることで、国際社会における我が国の役割や我が国と関係の深い国の生活についても理解を深められるようにする。</p>	<p>を助言する。</p>	<p>解決できるのかを、児童が自ら考え、立案することで、見直しをもつ力を育てる。</p> <p>「振り返り」については、自身の学びを見通せるシートを作成する。そうすることで、自身の学びを振り返り、まだ分からないことやもっと調べたいことを明確にし、次の学習に臨めるようにする。</p>
---	---------------	---

## 令和6年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第五小学校

### 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

#### (1) 成果

- ・算数的活動を多く取り入れたり、展開グループの実態に応じた指導の工夫を行ったり、導入で自由に発言をさせたりしたことで、児童の関心意欲を高めることができた。
- ・**数学的な考え方を用いて自力解決することに苦手意識をもつ児童のため、問題解決型の学習を取り入れた。**ノートや**画用紙・ホワイトボード**に自分の考えを書いたり友達と話し合ったりする時間を増やした結果、**自信をもって発言する児童の様子が見られた。**
- ・低学年のうちから文章問題を図式化する活動を行ってきた成果が、上学年の児童の様子からうかがえる。

#### (2) 課題

- ・苦手と思われる分野の問題練習に多く取り組ませ、**理解度を高めることはできたが、自分の言葉で説明することについては、定着したとまではいかなかった。**
- ・既習内容の復習にプリントなどで取り組む時間をスパイラルに取ることを**今後も続けていく。**

### 2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）△は目標値を上回っている。▽は目標値を下回っている。

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△	/	/
第5学年	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△ (第4学年時)	/
第6学年	知識・技能△ 思考・判断・表現▽ 主体的に学習に取り組む態度△	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△ (第5学年時)	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に学習に取り組む態度△ (第4学年時)

(2) 分析 (観点別) \*正答率について

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「かけ算の筆算に出てくる数の意味を理解している。」については大きく上回っている。</li> <li>・「整数—小数第一位の計算ができる。」については上回っている。</li> <li>・「円の半径について理解している。」については下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「棒グラフを正しく読み取り、1目盛りの大きさに着目して説明している。」については、大きく上回っている。</li> <li>・「□を使った文章問題(乗法の場面)を表した図の構造をとらえている。」については上回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「棒グラフから数量を読み取ることができる。」については大きく上回っている。</li> <li>・「1分=60秒の関係を理解している。」は上回っている。</li> </ul>

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年生「位取りの表を使って、命数法で書かれた数を記数法で表すことができる。」については下回っている。</li> <li>・6年生「比較量と割合から基準量を求めることができる。」については大きく下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年生「伴って変わる2つの数量の関係を式に表して、その式を使って一方の値からもう一方の値を求める方法を説明している。」については下回っている。</li> <li>・6年生「小数の乗法の式に合った文章問題を選んでいく。」については下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5年生「平行四辺形の作図ができる。」については大きく下回っている。</li> <li>・6年生「与えられた情報を読み取り、基準量と割合から求めた比較量を比べ、発言が正しいかどうかを判断し、そのわけを説明している。」については大きく下回っている。</li> </ul>

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年が上がってもスパイラルに既習内容を扱い、現在の学力の維持と定着を図る。</li> <li>・ステップアップ学習により、学習内容の定着を図る。</li> <li>・「たし算」「ひき算」については、<b>計算力</b>が身に付くようにプリントやタブレットを活用して<b>繰り返し練習</b>を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えをノートに記述させ、友達に説明する場面を積極的に設ける。</li> <li>・学習の中で考える時間を十分に確保し、多様な考えがあることを知る機会をもつ。</li> <li>・「水のかさ」「長さ」については、実際に測る活動を行い、生活の中で活用できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数指導を丁寧に行い、苦手意識のある児童に自信をつけさせる。</li> <li>・算数的活動を多く取り入れるなど、児童に興味関心をもたせるような指導方法の工夫を続けていく。</li> <li>・児童の「なぜだろう」「どっちだろう」など児童が疑問に思う気持ちを大切にした</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章から必要な情報を読み取り、図に表して考える活動を意図的に取り入れることで、演算決定し正確に立式できるようにする。</li> </ul>	導入を心がける。
--	--	----------

## (2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>学年が上がってもスパイラルに既習内容を扱い、現在の学力の維持と定着を図る。</li> <li>ステップアップ学習により学習内容の定着を図る。</li> <li>「小数」「円」等、普段の生活であまり使わない単元に対しては、復習の機会をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>低学年のうちから、文章題の分かっていること・問われていること・答えに付ける単位に下線を引いたり、図式化したりする活動を通して、問題をイメージできるようにしていく。</li> <li>学習の中で考える時間を十分に確保し、多様な考えがあることを知る機会をもつ。</li> <li>問題解決型の授業を意識し、自分の考えをノートに記述させてから発表するなど、表現する場を多く作る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>算数的活動を多く取り入れるなど、児童に興味・関心をもたせるような指導方法の工夫を続けていく。</li> <li>「グラフ」「時間の換算」など他の教科と関連し、利用できる力をつけさせる。</li> <li>文章から問題の意図を読み取り、必要な情報を得て問題を解くよう指導の方法を工夫する。すぐに立式作業に入らない。</li> <li>展開グループの実態に応じて分かりやすい授業を行い、理解度を高め、自信をつけさせる。</li> </ul>

## (3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>学年が上がってもスパイラルに既習内容を扱い、現在の学力の維持と定着を図る。</li> <li>ステップアップ学習により学習内容の定着を図る。</li> <li>「角度」「割合」等、普段の生活であまり使わない単元に対しては、復習の機会をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題解決型の授業を意識し、自分の考えをノートに記述させてから発表するなど、表現する場を多く作る。さらに、ノート以外に画用紙やホワイトボードに自分の考えを書かせ、それを黒板に掲示したものを友達同士で自由に見合ったりする活動を取り入れる。</li> <li>答えの見積もりをしてから計算させたり、見積もった値と照らし合わせて振り返らせたりする習慣をつける。特に小数の計算。</li> <li>グラフの学習においては、他教科と関連したり、身近な</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>算数的活動を多く取り入れるなど、児童に興味・関心をもたせるような指導方法の工夫を続けていく。</li> <li>「割合」「小数」など他の教科と関連し、利用できる力をつけさせる。</li> <li>文章から問題の意図を読み取り、必要な情報を得て問題を解くよう指導の方法を工夫する。すぐに立式作業に入らない。</li> <li>展開グループの実態に応じて分かりやすい授業を行い、理解度を高め、自信をつけさせる。</li> </ul>

	テーマに沿ってグラフ化したりする活動を取り入れるなど、丁寧に指導する。	
--	-------------------------------------	--

# 令和6年度 理科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第五小学校

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

### (1) 成果

- ・学習の中で、「気付き・疑問」→「問題」→「予想」→「実験・観察方法」→「実験・観察」→「結果」→「考察」→「結論」の流れで繰り返し指導を行い、児童の身の回りの事象や既習事項と関連付けて問題を設定することで、問題意識をもって学習に取り組むことができた。
- ・自然事象などの実感しにくい内容に関しては、ICT教材（デジタル教科書・動画視聴）などを活用し、一人ひとりが実際に追体験することで、実感を伴った理解をさせることができた。
- ・知識の定着を図るために、ドリルパークやプリントを使って繰り返し復習を行うことで、知識の定着だけでなく、問題の解き方に慣れることができた
- ・教科担任制の導入により、学年間で指導内容に差がなく、一貫した指導を行うことができた。

### (2) 課題

- ・予想したり、実験結果から考察したりする力に課題を感じる。予想では、生活経験や既習事項をもとにして考えられるように、考察では、実験結果を分析して予想と合っていたかを考えられるようにする。
- ・正しい実験器具の使い方や実験の手順が定着していないため、引き続き丁寧に指導していく必要がある。
- ・一度学習した内容も、時間が経つと忘れてしまうことが課題である。引き続き、ドリルパークや動画視聴など ICT 機器を活用しつつ、プリントも併用して行い、繰り返し様々な問題に取り組むことで知識の定着を図る必要がある。

## 2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）△は目標値を上回っている観点。▽は目標値を下回っている観点。

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	知識・技能△ 思考・判断・表現▽ 主体的に取り組む態度▽	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に取り組む態度▽	知識・技能▽ 思考・判断・表現△ 主体的に取り組む態度▽
第5学年	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に取り組む態度△	知識・技能▽ 思考・判断・表現△ 主体的に取り組む態度△	知識・技能▽ 思考・判断・表現△ 主体的に取り組む態度▽
第6学年	知識・技能▽ 思考・判断・表現▽ 主体的に取り組む態度▽	知識・技能△ 思考・判断・表現▽ 主体的に取り組む態度△	知識・技能△ 思考・判断・表現△ 主体的に取り組む態度△

(2) 分析 (観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・ 4年生は、目標値を上回る結果となった。「植物の育ち方」や「昆虫の育ち方」、「こん虫のからだのつくり」の中の、基礎的な知識を問う問題の正答率が低く、生命・地球領域の単元に課題があることが分かる。</p>	<p>・ 4年生は、目標値を下回る結果となった。特に目標値を大きく下回ったのは、「じしゃくのせいしつ」の中の、実験方法から考えの根拠となる磁石の性質を説明する記述問題である。物質・エネルギー領域の単元や活用に課題があることが分かる。</p>	<p>・ 4年生は、目標値を下回る結果となった。特に「こん虫の育ち方」の中の、モンシロチョウの卵のうみ方を他の昆虫に適応して回答する問題の正答率が低く、既習事項から推測することに課題があることが分かる。</p>

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・ 5年生は、目標値を上回る結果となった。気温を測る条件と百葉箱つくり、方位磁針の使い方に関する問題の正答率が低く、実験操作や用具の使い方の定着に課題があることが分かる。</p> <p>・ 6年生は、目標値を下回る結果となった。生命・地球領域の単元全般において、選択肢がなく自分で用語を記述する問題の正答率が低く、基礎的な知識の定着が課題であることが分かる。</p>	<p>・ 5年生は、目標値を上回る結果となった。唯一目標値を下回ったものは、「水のすがた」の中の、水が氷になるまでの時間をグラフから読み取る問題である。</p> <p>・ 6年生は、目標値を下回る結果となった。「植物の花のつくりと実」と「電流のはたらき」の中の、解答形式が選択でない問題の正答率が低く、活用に課題があることが分かる。</p>	<p>・ 5年生は、目標値を上回る結果となった。記述問題の無回答の割合が低く、グラフから読み取ったことや実験結果から考えられることを、自分の言葉で説明することに前向きさが伺える。</p> <p>・ 6年生は、目標値を下回る結果となった。記述問題の無回答の割合が高く、特に実験方法や器具の使い方を説明することに課題があることが分かる。</p>

3 授業改善のポイント (観点別)

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>・ 実感を伴った理解が図れるよう、観察や実験などの体験的な学びを取り入れる。</p> <p>・ 正しい手順で器具を扱うことができるようにしたり、理科用語を覚え、積極的に活用させたりする。</p> <p>・ ドリルパークやプリントを活用し、基礎的な知識の定着を図る。</p>	<p>・ 「気付き・疑問」→「問題」→「予想」→「実験・観察方法」→「実験・観察」→「結果」→「考察」→「結論」の学習の流れを定着させる。</p> <p>・ 考察では、結果から分かったことを自分の言葉でまとめ、表現させることを繰り返し指導する。書き方の型を示したり、キーワードを提示したりする。</p>	<p>・ 植物の栽培や昆虫の飼育といった体験活動に取り組みせ、観察したり、調べたりさせる。</p> <p>・ 一人ひとりが実験や観察に関われるように、場の設定や実験方法の工夫を行う。</p> <p>・ 実験を通して、同じようなことが身の回りであるかなどを考え、生活場面に結び付けられるようにする。</p>

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"><li>・正しい手順で器具を扱うことができるようにしたり、理科学用語を覚え、積極的に活用させたりする。</li><li>・器具の使い方については、過去に扱ったものであっても、教科書や動画資料を活用して振り返りながら、繰り返し行うようにする。</li><li>・ドリルパークやプリントを活用し、基礎的な知識の定着を図る。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・「気付き・疑問」→「問題」→「予想」→「実験・観察方法」→「実験・観察」→「結果」→「考察」→「結論」の学習の流れを定着させる。</li><li>・自分で立てた予想をもとにして実験したり、予想したことを確かめるための方法を考えたりできるようにする。また、結果の見通しをもった上で実験に取り組めるようにする。</li><li>・考察では、結果から分かったことを自分の言葉でまとめ、表現させることを繰り返し指導する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・身の回りの事象や既習事項と関連付けた教材を工夫し、関心を深めつつ、問題意識をもって学習に取り組めるようにする。</li><li>・一人ひとりが実験や観察に関わるように、場の設定や実験方法の工夫を行う。</li><li>・実験を通して、同じようなことが身の回りであるかなどを考え、生活場面に結び付けられるようにする。</li></ul>

# 令和6年度 生活科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第五小学校

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

### 成果

- ・ 町探検によって、地域の方と連携をしながら学習を深めることができた。
- ・ 知的な気付きにつながる活動になるよう発問や導入の工夫を行うことで、目的意識をもちながら学習を進めることができた。
- ・ まとめの活動で ICT を活用し、表現方法に多様性をもたせたことで、意欲的に学習に取り組むことができた。

### 課題

- ・ 家庭との連携をどのように、どの程度進めていくのかについて、課題が残った。

## 2 大田区学力効果測定の結果分析と授業改善ポイント

	現状	改善策
低	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ なかよし広場や観察池など校内の季節を感じられるよう、定期的に観察する時間を設けている。これにより、季節の変化や植物や生き物に触れる機会を確保している。</li> <li>◆ なかよし広場で野菜を育てる活動、にこにこ大作戦で家族の手伝いをする活動、まちたんけん地域のお店に行く活動など、身近な生き物や人々と関わりながら活動している。</li> <li>◆ 一つ一つの活動の関連性や積み重ねを実感せずに取り組んでいる様子が見られる。そのため、児童が自分の力で学習の課題や問題の解決に取り組むことを通して、知的な気付きを促していくとともに、興味関心をもって主体的に取り組む意欲につなげていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 校内だけでなく、身の回りの公園等（平和の森公園）について知る機会を増やし、季節の移り変わりを感じられるようにする。それぞれの季節の学習に合わせて観察をし、変化に気付くような導入や振り返りを行う。</li> <li>◆ 他学年や保護者ボランティアの方、地域の方・商店街の方との関わりから「気付き」を得ることができるようにする。町探検において、多様な店や施設と直接交流が行えるよう、場所の精選を行う。</li> <li>◆ 自分たちで工夫して遊びや活動を楽しくしようとする考えを引き出す。そのために、繰り返し関わったり試行錯誤したりすることができるような活動を設定し、気付きの質を高められるようにする。</li> <li>◆ 振り返りや学習課題の解決過程の中で、児童の問いや疑問を引き出す発問をし、児童の意欲や、気付きの質を高めるために、どのような体験や活動が適切か吟味する。</li> <li>◆ 気付いたことを様々な形で表現できるように ICT を活用する機会を増やす。伝え合い、交流する場を工夫することで、友達の発見に気付いたり、比べたりし、気付きの質を高めることができるようにする。</li> </ul>

# 令和6年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第五小学校

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

- ・楽器やパートを自分達で考え、グループ合奏に取り組むことができた。(高学年)
- ・常時活動でドの位置や音の高さについて少しずつ理解が深まってきた。
- ・リコーダーや鍵盤ハーモニカの活動ができるようになり、少しずつ技能が高まってきた。
- ・録音や動画を撮り、振り返りをすることで自分たちの演奏を客観的に聴き、改善点を見つけ、次の活動に生かすことができた。

## 2 大田区学力効果測定の結果分析と授業改善ポイント

	現状	改善策
低	<p>&lt; 思考・判断・表現 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 歌詞の表す情景や気持ちを考え、声の出し方や表現の仕方を工夫しようとしている。強弱の違いやリズム、旋律の反復を聴き取ることはできたが、それを音楽づくりに生かすまでには至っていない。</li> </ul> <p>&lt; 知識・技能 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 多くの児童が正しい音程で歌ったり、いろいろな楽器を演奏したりすることができる。鍵盤ハーモニカの演奏ではドの位置が分からなかったり、音の高さの理解ができていなかったりする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ リズムを反復したり強弱の変化を表現したりする楽しさを味わわせられるような活動(ドラムサークルなど)を使って音楽のしくみを体で感じ取り、少しずつそれを活用できるような活動を取り入れる。</li> <li>◆ 静かに集中して演奏する場面、少人数で他の楽器と合わせて演奏する場面をつくる。</li> <li>◆ 常時活動にドの位置が分かるような活動をしたり、視覚的に音の高さを確認できるものを貼ったりしておく。</li> </ul>
中	<p>&lt; 思考・判断・表現 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 楽器の響きや特徴を感じ取り、それを基に音楽の表現を考えて工夫したり、楽しさを感じながら聴いたりしている。</li> </ul> <p>&lt; 知識・技能 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 旋律の重なりに気づき、互いの歌声を聴いて声を合わせて歌うことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 楽曲に合った身体表現やボディパーカッションなどを取り入れながら鑑賞するなど体で感じる授業を工夫する。</li> <li>◆ リコーダーの導入時に運指、姿勢、息の強さを確認し、一人ひとり演奏する機会を設ける。また、リコーダーのデジタル教材も活用し、視覚的にも分かりやすい授業を行う。</li> </ul>
高	<p>&lt; 思考・判断・表現 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 声や楽器の重なりに気づき、美しさや良さを感じ取ることができる。曲想にあった楽器の表現や、どのように演奏したいかについて考えたり、思いをもったりすることが課題である。</li> <li>◆ 楽器の奏法を工夫することで表現が変わることを理解しているが、それを生かして演奏することが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 楽器の強弱やマレットによる音色の違いなどに興味をもたせ、表現の幅を広げられるよう指導する。</li> <li>◆ 歌や器楽合奏を録音し、客観的に聴くことによってどんなふう演奏したいか思いをもてるような場面を設定する。 思いをもって演奏したものに対する教師の価値づけをしっかりとっていく。</li> </ul>

<技能>

◆ 打楽器だけの音楽や簡単な作曲などの音楽づくり、二部合唱、器楽演奏、全てにおいて技能の差が大きい。

◆ 楽器に触れる機会を与え、各楽器の基礎的な奏法を覚えられるようにする。そして合奏における主旋律や副旋律の役割を考えさせ、バランスを考え、楽曲にふさわしい演奏をできるようにする。

# 令和6年度 図工科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第五小学校

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

新しく扱う材料や用具を丁寧に指導することで、工夫したり安全に取り扱ったりすることができた。また、児童の実態に合った題材を取り入れることで意欲的に活動することができた。様々な表現方法を工夫したり、根気よく作品作りに取り組んだりする姿勢に課題があり、見通しをもって授業時間内に完成させることができない児童が見受けられる点が課題である。

## 2 大田区学力効果測定の結果分析と授業改善ポイント

	現状	改善策
低	<p>〈思考力, 判断力, 表現力〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イメージを広げて制作活動に取り組むことができない児童がいる。</li> </ul> <p>〈知識及び技能〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はさみ、のりの使い方や絵の具の使い方等、技能に個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 自由な発想を促すため、教師の見本や表現・材料のパターンをいくつか紹介し、発想が広がるように材料を用意する。</li> <li>◆ 活動の中で工夫している児童の作品等を紹介し、制作のヒントとなるようにする。</li> <li>◆ はさみや絵の具などの道具を系統的に使い、表したいことに合わせて用具を使い技能を伸ばす。</li> </ul>
中	<p>〈思考力, 判断力, 表現力〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマや描画材、材料や道具などから、思いをもったり自分らしい表現や計画を思いついたりして活動を進めることができる。描き足したりつくり変えたりしながら構想を深めている姿が見られる。</li> </ul> <p>〈知識及び技能〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・用具の使い方に慣れ安全に使用しているが、自分の表したいことに合わせて材料や用具の特徴を生かして使うところまで至っていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 一人一人の発想や構想のユニークさ、面白さなどを共感的な姿勢で見取る。じっくり取り組めるように言葉がけや材料等の環境的な側面で支援する。一人一人の発想や構想のユニークさ、面白さなどを共感的な姿勢で見取る。じっくり取り組めるように言葉がけや材料等の環境的な側面で支援する。</li> <li>◆ つくったりつくり変えたりしていく中で、自分なりに表し方を工夫していくために、自分の感覚や行為を通して材料の特徴を捉えさせ、用具の使い方をスモールステップで指導していく。</li> </ul>
高	<p>〈思考力, 判断力, 表現力〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な材料や道具、表現方法に接し、試行錯誤できる範囲を広げる必要がある。安易に終着を決めず、じっくりと自分の表現に向き合っていく姿勢を身につけさせる。</li> </ul> <p>〈知識及び技能〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・用具・材料の特徴を生かして使うことができる。以前に学習した用具・材料の扱い方に課題のある児童もいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 児童一人一人の造形的な経験を生かせるような指導を工夫し、自分らしい表現の工夫を追求できる環境づくりに努める。</li> <li>◆ 課題の終末に、活動を振り返ってカードに記述させることで自分の表現を見つめさせ、どんな力が身に付き、何が身に付いてかを自覚せよ、次の課題の目当てをもたせる。</li> <li>◆ 児童自身が材料や用具を活用しながらその効果や可能性に気付いたり、そこから発想を広げたりしながら自分で選択して表現できるような指導をする。</li> <li>◆ 様々な道具や材料が活用できるように、教室の環境や材料の用意の仕方を工夫する。</li> </ul>

# 令和6年度 家庭科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第五小学校

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

・食生活について、調理実習を行った回数が少なく、知識技能の習得が甘かったように感じた。一学年下の内容を組み込みながら、スモールステップでできたことは実態に合っていてよかった。今年度は調理実習の時間を増やし、学年相応の技能習得を目指す。

・裁縫には十分に時間をかけることができ、技能の習得に繋がった。補習などを活用しながら、基礎基本の力を身に付けていく。毎年の課題であるミシンの使い方は、引き続き丁寧に、繰り返し練習していく必要がある。

## 2 大田区学力効果測定の結果分析と授業改善ポイント

	現状	改善策
高学年	<p>【食生活について】</p> <p>☆調理実習は、昨年度からできるようになったとはいえ、コロナ禍の影響は大きく、調理の経験が乏しい。包丁の使い方、分量の感覚などに経験による技能の差がある。しかし、調理実習に対する意欲は高く、班で協力しながら調理をしたり安全に活動したりすることができる。</p> <p>【衣生活・住生活について】</p> <p>☆「玉結び」、「玉止め」といった技能の習得に差がある。布を用いた物の製作では、学んだ縫い方を使って意欲的に製作ができていた。また、一人で取り組むのではなく、友達と話し合ったり教え合ったりしながら製作を楽しむ児童がいた。</p> <p>☆ミシンの取り扱いについては、上糸や下糸の取り付け方の習得は未だ難しい児童が多い。一方、縫い進めていくと自分の目的や計画に沿って製作することができていた。</p> <p>☆家庭科で学んだ整理・整頓や清掃の仕方を、自分の生活に生かそうとすることができた。</p> <p>【家族や家庭について】</p> <p>☆普段から家庭での自分の役割がある児童が多く、家族の一員としての自分の役割を感じている。</p>	<p>◆調理実習で学んだことを、家でも実践できるようにする。限られた授業時数の中で、実習の機会を増やしたり、経験できる回数を増やしたりすることで、技能の差を補う。</p> <p>◆家庭科の時間だけでなく、学級活動の時間なども活用し、栄養士と連携を図りながら食事の役割や大切さを理解できるようにする。</p> <p>◆裁縫等の指導では、電子黒板を効果的に活用し、拡大投影機で教員の手元を写して動きを指導したり、インターネット上の家庭科に関する動画を投影し、操作のポイントを説明しながら指導したりする。また、練習用の布に繰り返し時間をかけて練習することで、習得できるようにする。</p> <p>◆製作物の縫い方、適した布、裁ち方などの視点を与え、観察の時間を十分にとる。また、必要に応じて示し、イメージできるようにする。実習の際は一つ一つの段階を丁寧に指導する。</p> <p>◆家庭と連携し、長期休みなどを利用し、調理や裁縫の課題を出すようにし、少しでも経験を増やしていく。</p>

# 令和6年度 体育科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第五小学校

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

- ・休み時間に持久走タイムを取り入れたことによって、体力の向上へつながった。
- ・水泳指導時間を増やしたことにより、泳力の向上へつながった。

## 2 大田区学力効果測定の結果分析と授業改善ポイント

	現状	改善策
低	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 長座体前屈、反復横とび、50m走の数値が全国と比べて下回っている傾向にある。(令和6年度体力テストの結果より)</li> </ul> <p>&lt;技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 鉄棒での腕支持感覚が乏しく、前まわりを怖がる子もいる。</li> <li>◆ マット運動の技能が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 高学年では、体力測定の結果から自分の体力を高める活動に取り組ませる。</li> <li>◆ 走る、跳ぶ、柔軟性を高める動きを考え、休み時間にサーキット形式で取り組めるようにする。</li> <li>◆ 軟性を高める運動を各担任が理解し、準備運動に取り入れるようにする。</li> <li>◆ ラダーやミニハードルを使った運動遊びも意図的に取り入れる。</li> </ul>
中	<p>&lt;技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 50m 走のタイムが全国平均を下回っている。鉄棒など腕で体重を支えることが苦手な児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 陸上運動はそれぞれの技のポイントを理解させ、学習カードを活用しめあてをもって取り組ませる。</li> <li>◆ ICT を活用して自分の運動の様子を見られるようにしたりする等の指導法を工夫する。</li> </ul>
高	<p>&lt;技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 器械運動より、陸上運動の技能が低く、走る、跳ぶといった動きを苦手としている児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 器械、器具を使っての運動遊びや器械運動では、主運動に入る前の運動感覚づくりの時間を帯で設定する。</li> </ul>
共通	<p>&lt;主体的&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 運動に関する意欲は高く、楽しんで取り組んでいる。</li> </ul> <p>&lt;技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ コロナ禍の影響で、泳力が身に付いていない児童が多い。また、走る、跳ぶといった運動を苦手としている児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 水泳の指導時間を増やし、課題別練習の時間を多く設定する。</li> <li>◆ 教員間で水泳指導の情報を共有し、指導方法や内容に差が生じないようにする。</li> </ul>

# 令和6年度 外国語科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第五小学校

## 1 昨年度の授業改善推進プランの検証

### (1) 成果

- ・授業の導入に「スマールトーク」を設定することで、ALT と児童の間だけでなく児童と児童の間でもやり取りをする習慣が定着した。また、チャンツやペア学習など話す活動を意図的に多く設定したことで、英語を使ってコミュニケーションを取ることに抵抗を感じる児童が少なくなった。
- ・毎時間、挨拶・月日・曜日・天気・感情を確認する活動を設定することで、日常会話で使用する基本的な表現を習得することができた。

### (2) 課題

- ・活字体を正しく書く活動に課題が残る。

## 2 大田区学習効果測定の結果分析

### (1) 達成率(経年比較)

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年			
第5学年			
第6学年	全ての領域で目標値を上回っている。区の平均正答率と比較しても、上回っているが、都の平均正答率では「書くこと」が1.4ポイント下回っている。	目標値より上回っているが、区の平均正答率や都の平均正答率より下回っている。	目標値より上回っており、区の平均正答率もわずかに上回っている。

### (2) 分析(観点別)

#### ① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

#### ② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・目標値を4.5ポイント上回っている。また、全国平均正答率も1ポイント上回っているが、区平均正答率は1ポイント下回る結果となつて	・目標値を6.6ポイント、区平均正答率を2.9ポイント、全国平均正答率を3.6ポイント上回る結果となっている。 ・もののありかをたずねる場面	・目標値を5.8ポイント、区平均正答率を7.8ポイント、全国平均正答率を4ポイント上回る結果となっている。 ・アルファベットの書きや英作

<p>いる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音声を聞き、活字体の大文字・小文字を正しく書く問題が目標値を13.3ポイントと多く下回っており、課題が見られる。</li> </ul>	<p>で、対話の流れから適切な語句を選ぶ問いや、場所を表す表現を判断して書く問いに課題が見られる。</p>	<p>文が無回答の児童がおり、課題が見られる。技能と意欲の両面を高めていく必要がある。</p>
--	---	---

### 3 授業改善のポイント（観点別）

#### (1)低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

#### (2)中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャンツ等を使用して、アルファベットの音声と活字を確実に一致させるようにする。</li> <li>・3年生国語科のローマ字指導の単元を入れ替えて、年度当初に実施する。朝学習の時間を活用し、週1回アルファベットの大文字・小文字の正しい読み書きの指導を年間を通して行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎時間、挨拶・月日・曜日・天気・感情を確認し、日常会話で使用する基本的な表現に慣れ親しませる。</li> <li>・ペアでのやり取りを単元中に1回以上取り入れ、外国語でやり取りすることに慣れ親しませる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ALTとの挨拶やゲーム、チャンツ等を使用して、毎時間全員が外国語を声に出す習慣をつくる。</li> <li>・休み時間や下校時を活用し、授業時間外にもALTと接し、外国語で伝え合う力の素地を養う。</li> </ul>

#### (3)高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き取ったことをメモする活動等を取り入れ、音声を聞いて単語を正しいスペルで書けるよう指導を行い、知識の定着を図る。</li> <li>・学習した単語を発音するだけでなく、書く活動を意図的に設定し、スペルを正しく身に付ける。そのため、朝学習の時間を活用し、週1回プリント学習を年間を通して行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の“Panorama”を活用し、文(音声)と場面(具体物)を一致させるよう、話を聞きながら絵を指差す活動を取り入れる。</li> <li>・外国語で円滑にやり取りできるよう、ペアでのやり取りを毎時間取り入れる。</li> <li>・習得した単語を使って簡単な文章を作ることができるよう、単語や構文のカードを掲示する。また、カードを掲示することで正しいスペルの定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の導入に「スモールトーク」を設定し、ALTと学級担任で本時の学習内容につながる内容のやり取りを行うことで、児童の学習意欲を高めると同時に新しい表現を会話の流れの中から自然と学習する機会とする。</li> <li>・休み時間や下校時を活用し、授業時間外にもALTと接し、外国語を話す習慣の定着を目指す。</li> </ul>